

# 袋切表具切之控 ― 鴻池家における名物裂の蒐集と利用 ―

中野 朋子

## はじめに

大阪市では、平成八年から九年（一九九六―七）にかけて故十四代鴻池善右衛門氏より三八六件三、三五八点におよぶ鴻池家ゆかりの資料群（鴻池コレクシヨン）の寄贈を受けた。本コレクシヨンには、鴻池家に伝来した服飾品のほかに一七〇点に及ぶ裂類が含まれ、さまざまな角度から展示と調査研究が進められている<sup>1)</sup>。これらの多くは「新渡裂」と呼称される十七世紀以降に将来された裂類で、仕覆の解袋、端切れ、反物であり、「文政六年七月」「巾七寸 丈五寸」「■化二丑八月改 大極上惣金錦」などの付箋が附けられたり、諸処に大小の切り取りと書き込みが加えられた裂地なども含んでおり、鴻池家における裂地利用の痕跡を如実に確認できる資料群となっている。

これらの鴻池家伝来裂類の調査研究を目的として、同家に保管されていた古文書類に照会したところ、「袋切表具切之控」ほか数種の裂類に関する記録が保管されていることが判明した。なかでも「袋切表具切之控」はその史料名称の示す如く、茶道具の袋類に用いられた裂や表具裂についての記録であり、江戸時代の鴻池家における名物裂の蒐集と利用の実態把握を

進める上で重要な史料であることから、本史料の翻刻に着手した。

## 一 鴻池善右衛門家と茶の湯

まず簡略に、鴻池善右衛門家（以下、鴻池家と呼称する）について振り返っておく。

鴻池家は摂津国川辺郡鴻池村（現兵庫県伊丹市）の出身で、始祖新六幸元が清酒醸造で財を成した。元和年間（一六一五―一六二四）に大坂の内久宝寺町（現大阪市中央区）に進出したとされる。新六の後継となった善右衛門正成（鴻池善右衛門家初代）は、清酒業から海運業、大名貸を経て両替店を開業、二代之宗が延宝二年（一六七四）に今橋二丁目に両替店の本拠を構え鴻池両替店発展の礎を築いた。そして、この善右衛門家が以後の鴻池家の中心的存在となり、実質的な本家となった。鴻池家では、一族である分家、奉公人に別宅を許した別家は同族団として本家に従属しており、全体として鴻池家を支えたのである<sup>2)</sup>。

鴻池家では代々、不審庵に師事して茶の湯を学んだが、同家の茶の湯はひとくちにいうと「道具」に主眼をおいた茶の湯であり、数多くの「名物」

も蒐集した。そうした鴻池家の茶の湯の在り方を決定づけたのは、特に茶の湯に傾倒した四代当主宗貞（一六九八～一七四五）と五代当主宗益（一七一一～一七六四）、同族の鴻池道徳（二六五五～一七三六）の存在が大きいと考えられる。四代宗貞は、三代宗利（一六六七～一七三六）の子で、宝永二年（一七〇五）、八歳で家督を相続、号は宗羽、又継塵斎、了瑛とも称した。五代宗益は、享保二年（一七一七）、四代宗貞の子で、号は宗知、利永、吸江軒、思遠斎。ともに鴻池家の絶頂期に生まれ育った強大な当主であった。二人は、不審庵の六代覚々斎原叟宗左、七代如心斎天然宗左に師事して茶の湯を学び、如心斎亡き後は、八代啖啄斎宗左の後見ともなったようである。また、大徳寺玉林院八世で大徳寺三四一世をもつとめた高僧・大龍宗丈（一六四九～一七五一）とも交流を結んでいる。同族の鴻池道徳は、茶器目利きで茶人としても知られる。鴻池家初代善右衛門正成の兄・善兵衛秀成の孫にあたり、父は善兵衛道意。はじめ善三郎、のちに彌三兵衛と改め、鴻池善右衛門家と同様、両替業を営んでいたが、家業は子の善兵衛秀信に譲り茶の湯の道に専心した。老年、入道して「萬峯道徳居士」と称し、近衛家熙、如心斎、住友家、大龍宗丈らと交わりを結んだことで知られる人物であった。

## 二 鴻池家と草間直方

本史料の裏表紙表に「西 艸間」とある。名は記されていないが、鴻池家六代当主幸行（一七四四～一七九五）から八代当主幸澄（一七八五～一八三四）の代まで別家・草間家の当主として支えた草間直方（一七五三～一八三一）であろうと考えている。

草間直方こと鴻池屋伊助は、宝暦三年（一七五三）京都に生まれた。字

は士徳、通称は伊助、晩年伊三之助、別号に和楽。十歳で鴻池両替店の京都店へ奉公し、翌年大坂へと転じた。安永三年（一七七四）、鴻池の別家のひとつである尼崎町一丁目の草間家へ婿入り、今橋の鴻池本家に勤務した。文化五年（一八〇八）には願い出て「自分家業」が許され独立、文政七年（一八二四）に家督を伊作直諒に譲り引退した。直方は家業のかたわら学問を重ね、文化十二年（一八一五）に日本最初の貨幣史「三貨図彙」を著したほか、「鴻池新田開発事略（天・地・人）」（文化九年・一八一二）、「籠耳集」（文政五年・一八二二）、「草間伊助筆記」（全六巻、大阪市参事会編・発行『大阪市史』五巻に収載）などの重要な記録を残した。同時期に茶道具研究にも取り組み、その成果を九十五巻に索引二巻が添う大著「茶器名物図彙」<sup>3)</sup>として「文政丁亥とし初冬」、つまり文政十年（一八二七）にまとめ上げたのである。この点から考えても直方が本史料の記録に深く関わったとみて良からう。

## 三 史料の梗概

鴻池家に伝来し、鴻池合資会社資料室所蔵となっている「袋切表具切之控」は、縦一四・三糎×横四六・〇糎の横帳で、表紙、裏表紙に七丁を挟み込んでおり、六丁裏と裏表紙裏は白紙である。「切類控」と表記された縦三〇・〇糎×横一六・二糎の外袋が伴っている。表紙表に「文政十丁亥歳八月再改／袋切表具切之控／修覆二用ひ候を其度、印置可申事」と記されることから、掛物や茶道具などの「修覆」に用いた裂に関する記録で、一八二七年八月に改められたことが判明する。これは、草間直方の「茶器名物図彙」が成立する直前のことであり、本史料が「西 艸間」による記録であるからには、直方が同書をまとめるに先立ち、「切類」に関する記録を

改めたとする見方もできるだろう。

本史料では、記載品目を「切」以下の六項目に区分し、百二十四件百三十三点の裂名、数量、使途等の情報を記録し、異同の生じた場合には裂の有無や使用目的等が追記されている。裂名の右に黒印泥で干支の改印を押す。改印は丸形の枠内に干支一文字を陽刻したものである。これは記載事項の確認のために定期的に点検あるいは虫干しを実施し、その実施年に押印したものと考えられる。同様の改印は鴻池家の道具基本台帳である「寛政三年 道具改帳」（寛政三年・一七九一）にも押印されているが、それらの改印は角形の枠に干支一文字を陽刻したもので、定期的に行われた道具の点検あるいは虫干しの際に確認印として押されている。近年、五島美術館で初公開された鴻池家伝来の二種の名物裂群に付属する「筆筒袋切目録」（文政五年・一八二二）、「茶入袋切仮控録」（安政二年・一八五五）にも改印の押印があり、これらは共に「寛政三年 道具改帳」へ押された改印と同種のもので判ぜられるが、本史料に押された改印は右記の三史料とは明らかに別種のものである点には注意を払っておきたい<sup>(4)</sup>。

なお、本史料の記録者である別家の草間直方は「寛政三年 道具改帳」が編まれた時期に鴻池家の今橋本邸に勤め、同家の道具管理にも携わっていたため、鴻池家と同じ道具管理方法を草間家においても導入、実践していた可能性は否定できない。一方で本史料が鴻池合資会社資料室の所蔵となっている点から考えれば、鴻池家所蔵の裂類についての記録であったと考える方が妥当性が高い。つまり、本史料の帰属先については、鴻池家、草間家、そのいずれかに決定づけるだけの有力な判断材料が存在しないため、今後の研究によって明らかしていくこととする。

註

(1) 大阪歴史博物館編『豪商鴻池―その暮らしと文化―』、東方出版社発行、二〇〇三年

拙稿「臨幸記念 名家秘藏品展覧会」の開催と鴻池家による秘藏品の出品」、『大阪歴史博物館研究紀要』第十二号収載、二〇一四年ほか

(2) 鴻池家における「本家」「分家」「別家」とそれぞれの経営形態については前掲(1)に掲載の「本家・分家・別家」を参照のこと。

鴻池統男著、廣山謙介監修『鴻池家年表』、鴻池合名会社発行、一九九一年

(3) 前掲(1)を参照のこと。

草間直方著、永島福太郎・原田伴彦監修・校閲『茶器名物図彙』、文彩社発行、一九七六年

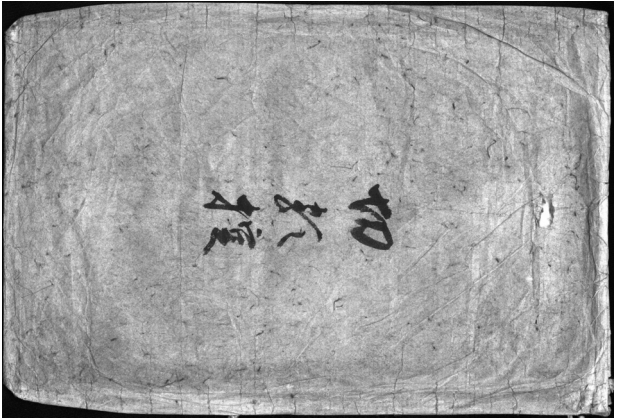
同書の記述範囲は、茶の湯の成立から江戸時代後期にまで及ぶもので、古今の名物茶器を詳細に見出しその記録を挿入りて掲載している。長く草間家によって秘蔵されたが、昭和五十一年(一九七六)に永島福太郎・原田伴彦両氏の監修・校閲によって初めて刊行された。

(4) 前掲(1)に掲載の「道具帖と道具の管理―鴻池家伝来の茶道具―」を参照のこと。

佐藤留実「新出・鴻池家伝来 名物裂コレクション」、『五島美術館研究紀要』第二号収載、二〇一四年

「附記」末筆となりましたが、本稿の執筆にあたり、史料調査ならびに写真掲載をご許可いただきました鴻池家の皆様ならびに鴻池合資会社資料室、翻刻にあたり多くの助言をいただきました諸兄に心より御礼申し上げます。

〔袋〕



切類控

〔凡例〕

一、本史料の翻刻にあたり、墨付のある全九丁について全編写真を掲載した。但し、紙幅の都合上、白紙であった六丁裏と裏表紙裏については写真掲載を見送り、白紙である旨を明記するに止めた。

二、仮名は原則として原本通りとしたが、変体・合字などは通行のものに改めるとともに、漢字は現行の字体を用いた。

三、誤記および必要と思われるところは、該当箇所の上に括弧を付し傍注した。

四、ふりがな、清濁は原文のままとした。

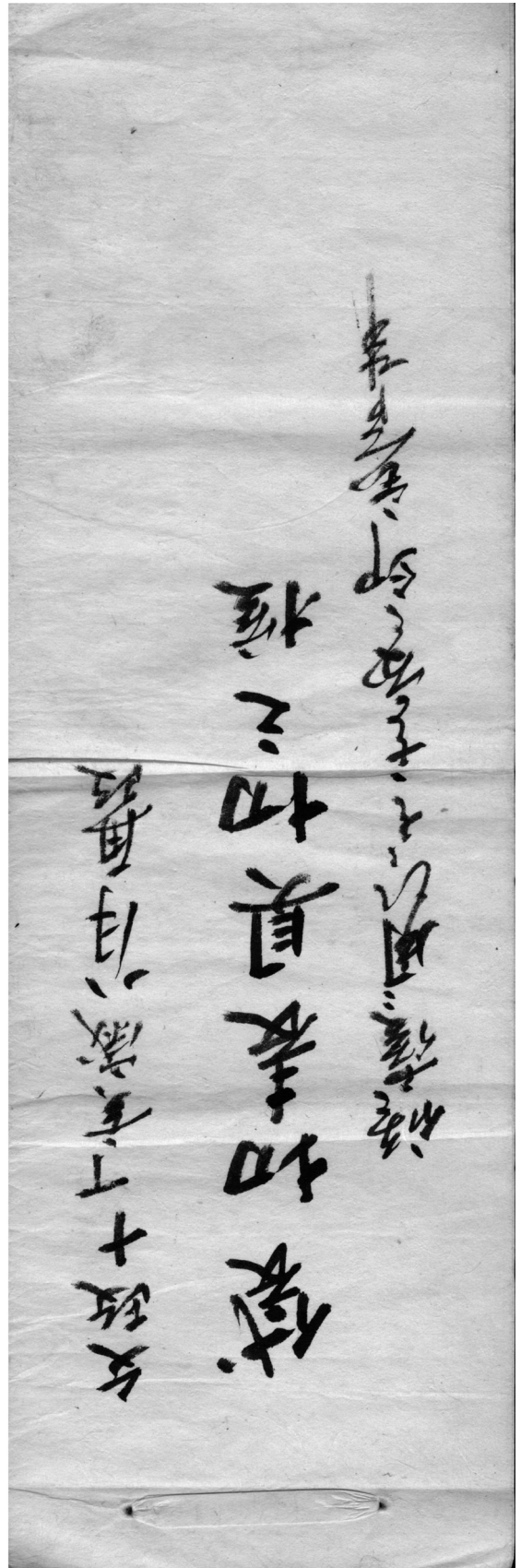
五、原本に丁数の記載はないが、便利のため、次のように示した。  
表紙の表→表紙表 一丁目の裏→一丁裏

六、○に干支を記したものは改印を意味する。

七、朱書等については（ ）内にその旨を明記した。

八、原本中の裂に関する表記で現行の表記と異なるものがあるが、原本通りとした。  
金欄→金蘭 緞子→純子

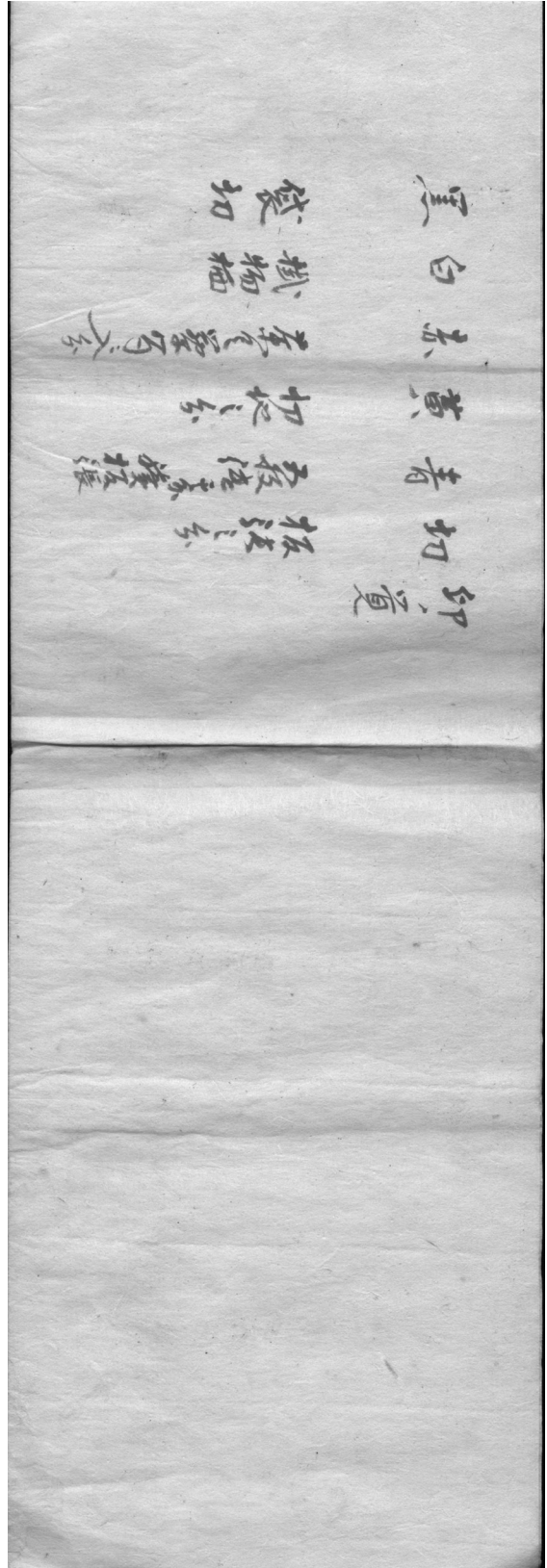
九、原本中の表具裂に関する表記は省略されている場合がある。  
中→中廻し 上→天 下→地 風→風帯



[表紙裏]

文政十丁亥歳八月再改  
 袋切表具切之控  
 修復二用ひ候を其度、印置可申事

[表紙裏]



(この頁すべて朱書)  
印ノ寛

黒  
白  
赤  
黄  
青  
切

板張ノ分

五枚継其分続板張

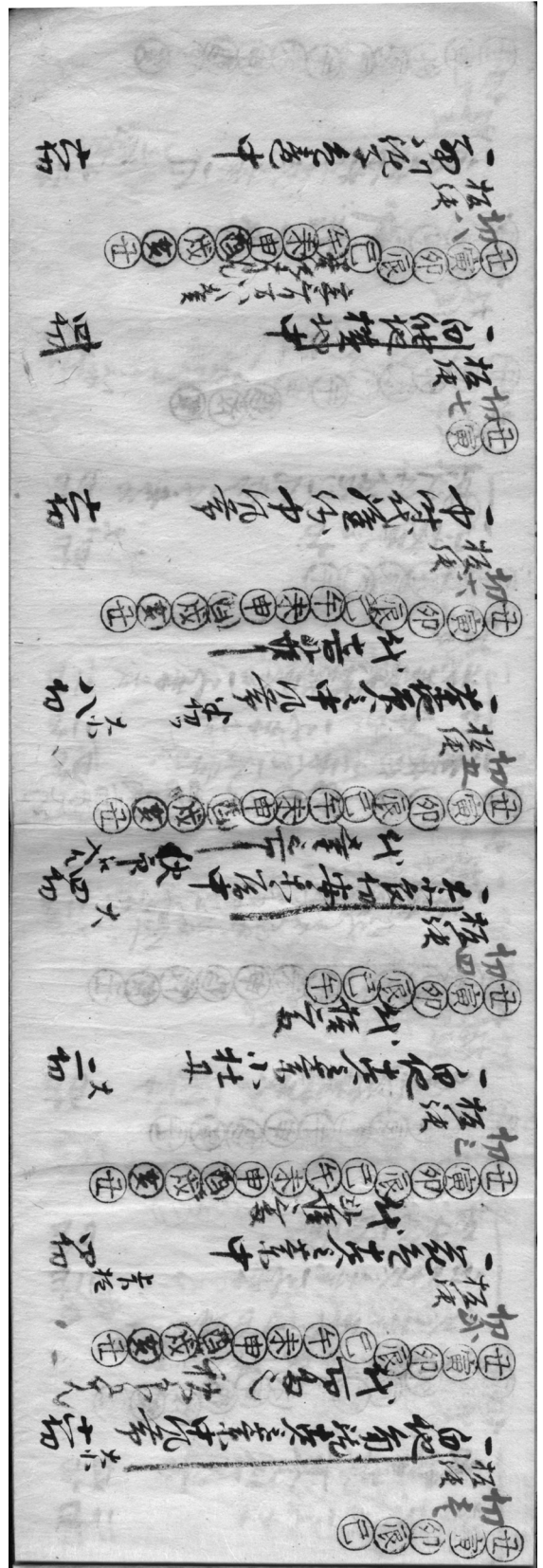
切地之分

茶具(箱カ) 筒二分

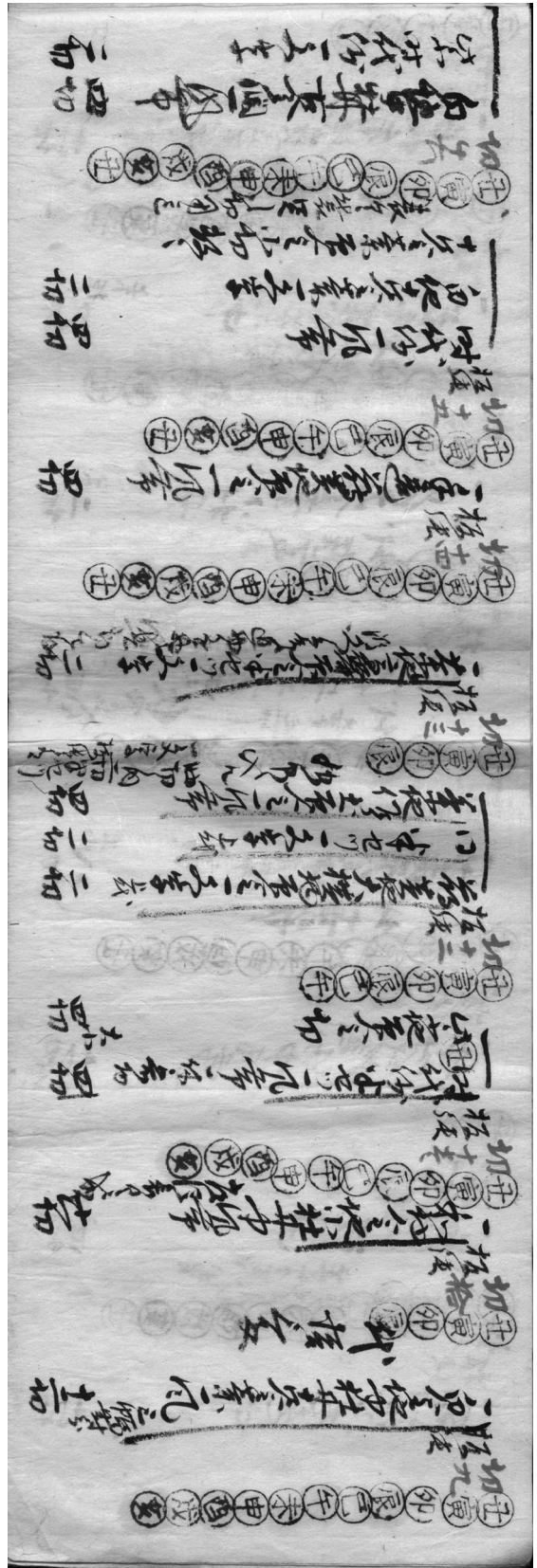
掛物(箱カ)

袋切

- ⑤(圓)④(長)③(巳) 切壹 (朱書) 板張
- 一白地角龍古金蘭中風帶 大小六切
- 代百而成 秋印江付ル
- ⑤(圓)④(長)③(巳)②(午)①(未)④(申)③(酉)②(戌)①(亥) 切弍 (朱書)
- 一花色古金蘭中
- 代弍拾三両
- ⑤(圓)④(長)③(巳)②(午)①(未)④(申)③(酉)②(戌)①(亥) 切三 (朱書) 板張
- 一白地古金蘭小牡丹 大二切
- 代拾二両
- ⑤(圓)④(長)③(巳)②(午)①(未)④(申)③(酉)②(戌)①(亥) 切四 (朱書) 板張
- 一奈良切安樂庵中
- 大四切
- 代金三百目 秋印江入ル
- ⑤(圓)④(長)③(巳)②(午)①(未)④(申)③(酉)②(戌)①(亥) 切五 (朱書) 板張
- 一茶地印金中風帶 半切ッ 大小八切
- 代七百弍拾目
- ⑤(圓)④(長)③(巳)②(午)①(未)④(申)③(酉)②(戌)①(亥) 切六 (朱書) 板張
- 一中時代鐘<sup>(鐘)</sup>紗中風帶 六切
- ⑤(圓) 切七 (朱書) 板張
- 一白紬地横物中
- 置三日万、廣
- 墨地二用ル
- ⑤(圓)④(長)③(巳)②(午)①(未)④(申)③(酉)②(戌)①(亥) 切八 (朱書) 板張
- 一細川純子色邊中 六切

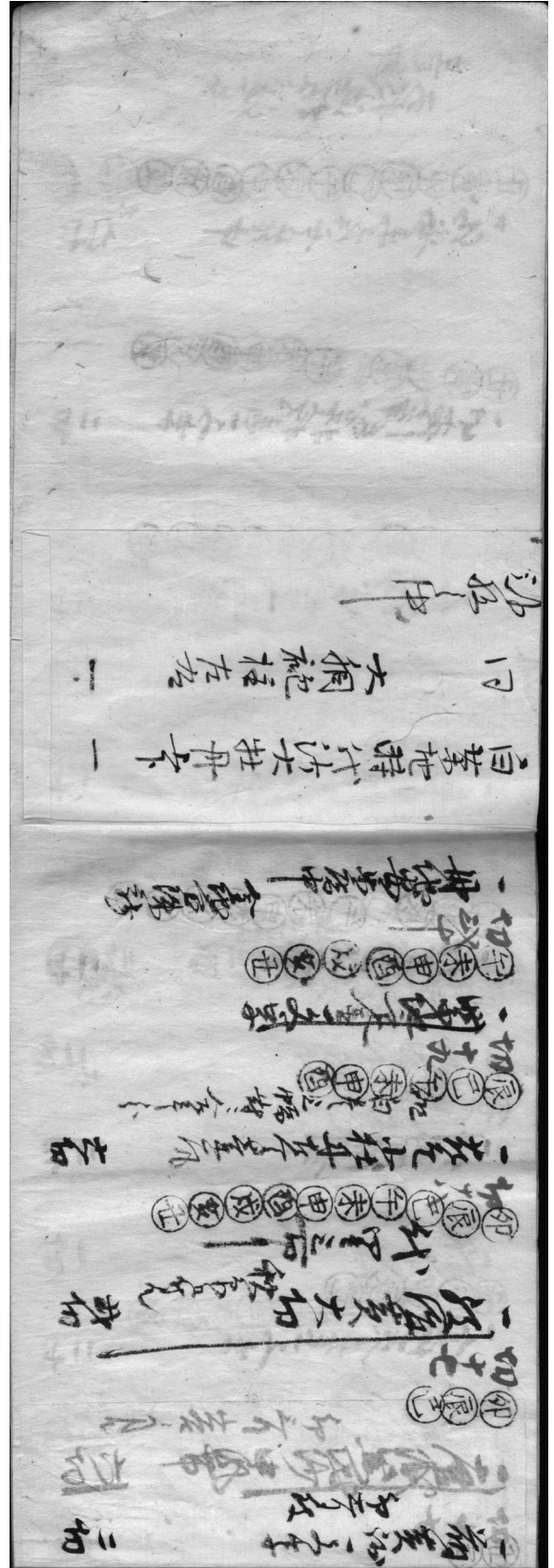


[ 二下表 ]



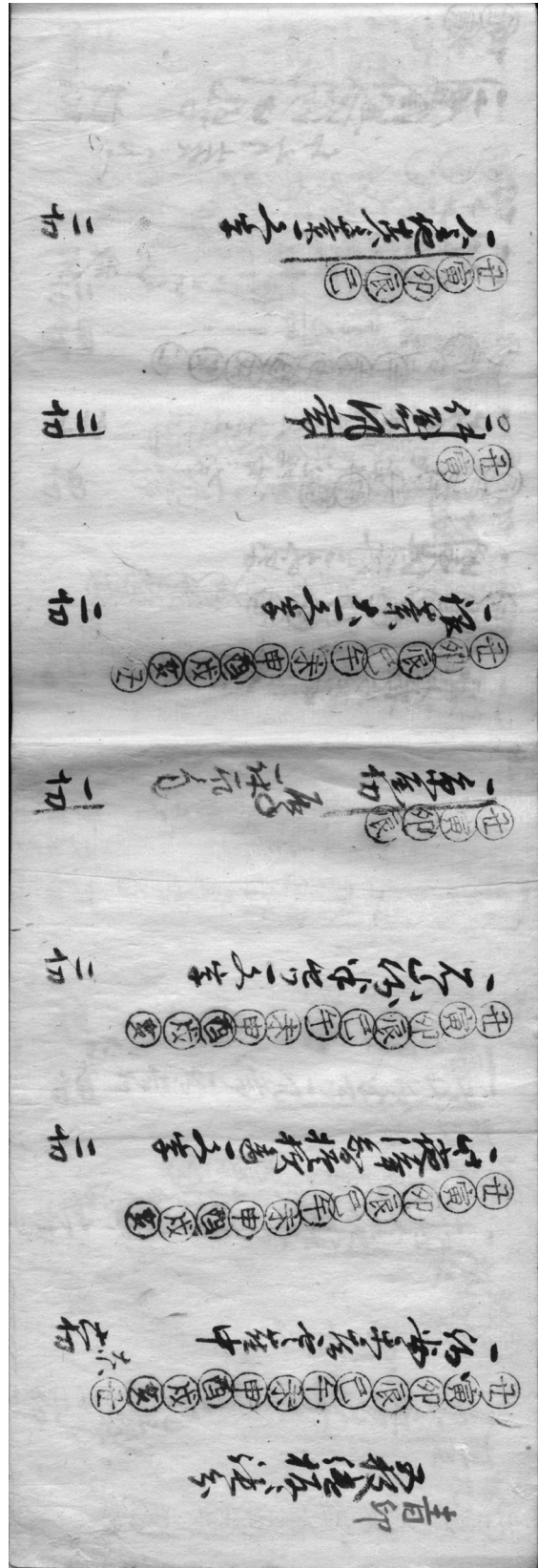
[二丁裏]

- ⑤(寅卯辰巳午未申酉戌亥) 切九(朱書) 板張 三幅對分  
一白金地中牡丹古金蘭一風 代拾三両 十二切
- ⑤(寅卯辰巳午未申酉戌亥) 切拾(朱書) 板張 六切  
一和物金地小牡丹中風帶 常信表具二成
- ⑤(寅卯辰巳午未申酉戌亥) 切十壹(朱書) 板張 四切  
一時代紗半七ツ一風帶 一休着物 ⑤(寅卯辰巳午未申酉戌亥) 紫地印金切 大小四切
- ⑤(寅卯辰巳午未申酉戌亥) 切十二(朱書) 板張 二切  
一萌黃地大横物印金一文字上地 同 半七ツ一文字上地 茶地作り土印金一風帶 秋印へ入ル 四切之内二切半七ツ 一文字板張有
- ⑤(寅卯辰巳午未申酉戌亥) 切十三(朱書) 板張 二切  
一茶地高麗印金半七ツ一文字 鴻久兵衛へ進物の返物二遣切七枚
- ⑤(寅卯辰巳午未申酉戌亥) 切十四(朱書) 板張 四切  
一手違萌黃地印金一風帶
- ⑤(寅卯辰巳午未申酉戌亥) 切十五(朱書) 板張 四切  
一時代紗一風帶 白地古金蘭一文字 古金蘭印金小切敷、 表具袋足之切用意
- ⑤(寅卯辰巳午未申酉戌亥) 切十六(朱書) 板張 四切  
一白地中牡丹古金蘭一風帶 紫時代紗一文字 二切



[二丁表]

- 萌黄紗一文字 卯十一月改 二切
- (紙貼で訂正) 切十七
- 一唐織紫地紗中風帯 卯三月 二用 六切
- ①辰巳 一紋海黄大切 卯辰巳 式切
- 切十七(朱書) 秋印江付 代四貫三百目
- ①辰巳 ②申酉戌多 一花小牡丹古金蘭一風 紳白卷三幅對二合八分 六切
- 切十八(朱書) ①辰巳 ②申酉戌多
- 一紫地印金一文字 切十九(朱書) 卯辰巳 卯辰巳
- ①申酉戌多 ②申酉戌多 一丹地安楽庵中 金地宝珠籠 切二十(朱書) ①申酉戌多 ②申酉戌多
- (二丁表付箋) 白茶地時代紗大牡丹上下 同 大桐樞柱左右 一
- 式枚之中

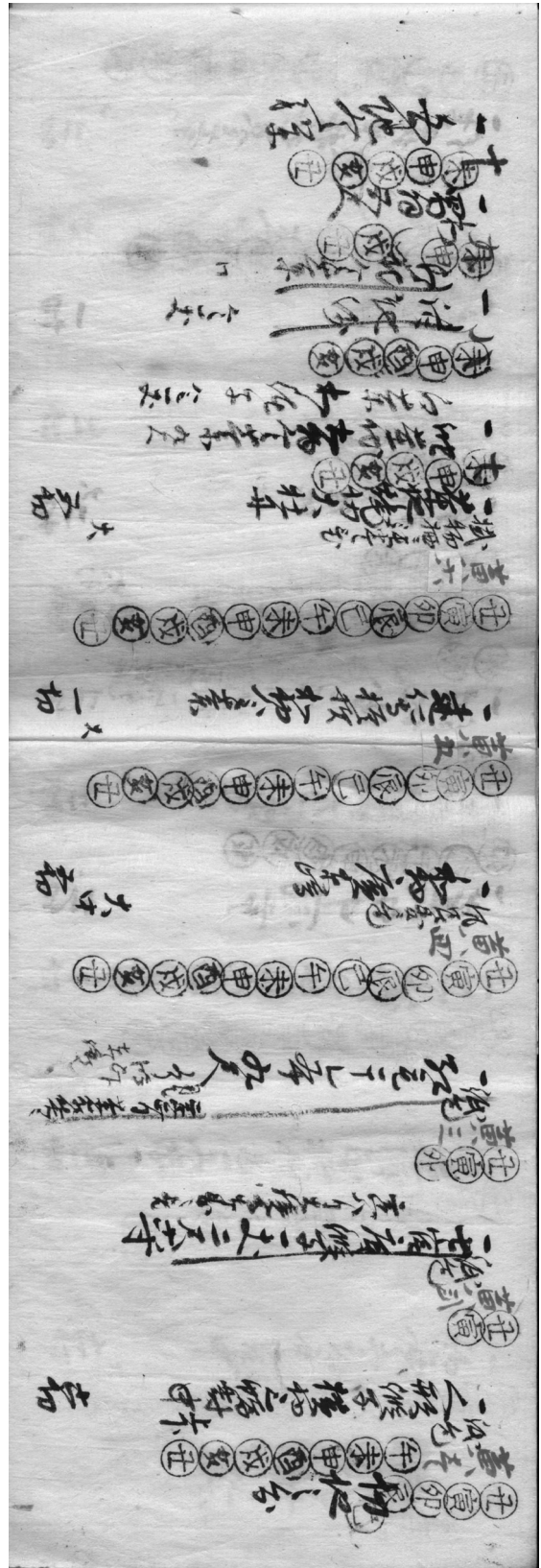


- 青印 (朱書)
- 五枚継板二張分
- ①(寅)卯辰巳午未申酉戌亥②
- 一紗安楽庵雲鶴中
- 大小
- 六切
- ①(寅)卯辰巳午未申酉戌亥②
- 一紫地隆智模様茜一文字
- ①(寅)卯辰巳午未申酉戌亥②
- 一石山紗半セツ一文字
- ①(寅)卯辰巳午未申酉戌亥②
- 一糸屋切 辰年
- ①(寅)卯辰巳午未申酉戌亥②
- 一休一風三用ル
- 一銀蘭大一文字
- ①(寅)卯辰巳午未申酉戌亥②
- 一竹屋町風帯
- ①(寅)卯辰巳
- 一金地古金蘭一文字
- ①(寅)卯辰巳

[二丁裏]



[三丁裏]

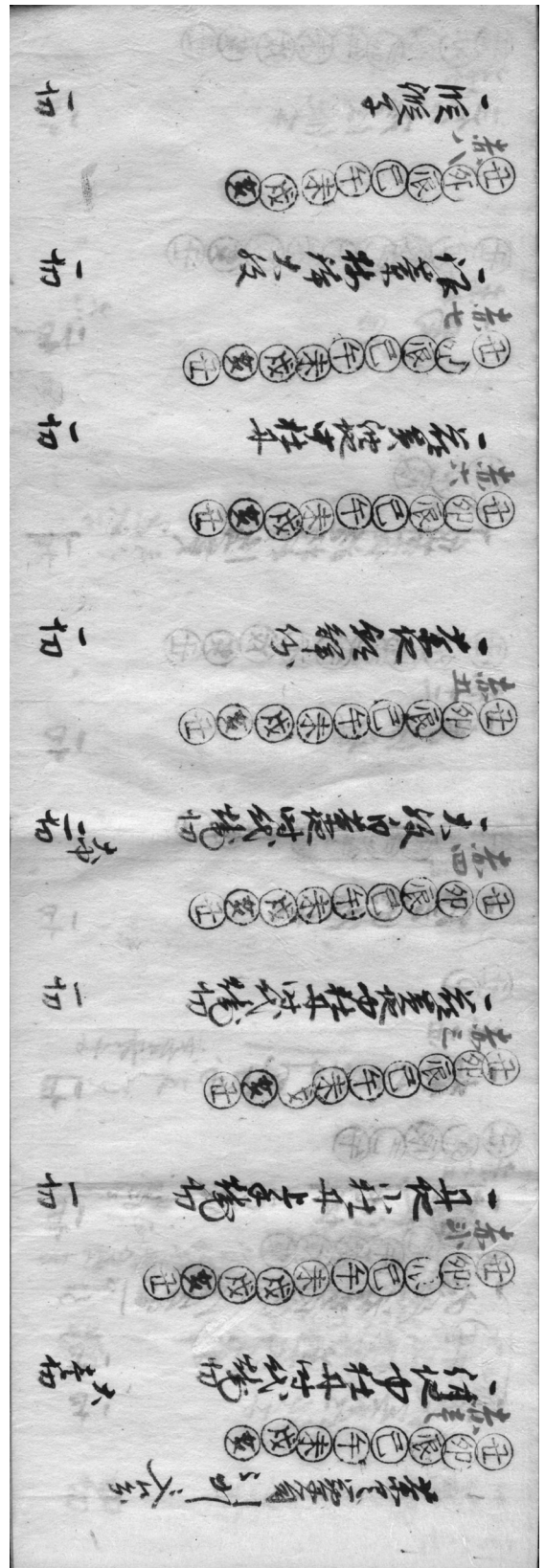


切地之部

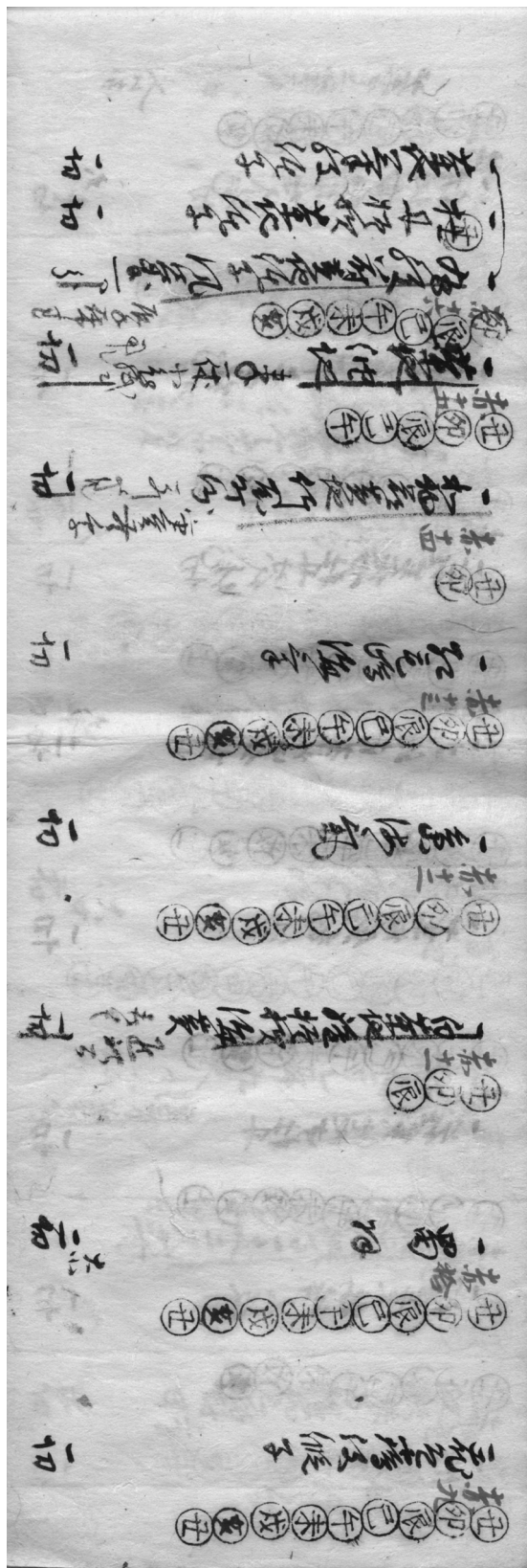
- 紙包 黄葦 (朱書) 卅(圓)卅(長)巳(午)未(申)酉(戌)亥(卅)
- 一人形緞子横物三幅對上下 卅(圓)卅(長)巳(午)未(申)酉(戌)亥(卅)
- 紙包 黄式 (朱書) 卅(圓)
- 一七官庵緞子二丈二尺六寸 寅八月大鏡乃打敷二上ル
- 紙包 黄三 (朱書) 卅(圓)卅(長)巳(午)未(申)酉(戌)亥(卅)
- 一紅花ナシ布九尺 寅正月茶箱袋二 用ル 今鴻印 在
- 黄四 (朱書) 卅(圓)卅(長)巳(午)未(申)酉(戌)亥(卅)
- 風呂敷二包 一和物廣東嶋
- 大中 大 一切
- 一建仁寺模様和物金蘭 卅(圓)卅(長)巳(午)未(申)酉(戌)亥(卅)
- 黄五 (朱書) 卅(圓)卅(長)巳(午)未(申)酉(戌)亥(卅)
- 掛物 二張卷置 卅(圓)卅(長)巳(午)未(申)酉(戌)亥(卅)
- 大 五切
- 一茶地焼切大牡丹 卅(圓)卅(長)巳(午)未(申)酉(戌)亥(卅)
- 黄六 (朱書) 卅(圓)卅(長)巳(午)未(申)酉(戌)亥(卅)
- 一茶地焼切大牡丹 卅(圓)卅(長)巳(午)未(申)酉(戌)亥(卅)
- 大 五切
- 七 (朱書) 卅(圓)卅(長)巳(午)未(申)酉(戌)亥(卅)
- 細茶地和物金蘭 九尺
- 白茶和繩子 全二丈
- 八 (朱書) 卅(圓)卅(長)巳(午)未(申)酉(戌)亥(卅)
- 紺地紗 全二丈 同
- 紅地金蘭
- 和 九 (朱書) 卅(圓)卅(長)巳(午)未(申)酉(戌)亥(卅)
- 一蜀拝 五尺
- 卅(圓)卅(長)巳(午)未(申)酉(戌)亥(卅)
- 十 (朱書) 卅(圓)卅(長)巳(午)未(申)酉(戌)亥(卅)
- 一白地金蘭

茶具篋筒引出し三八九分

- ① 卯辰巳午未戌亥 赤壹 (朱書)  
一緹地中牡丹時代焼切
  - ② 卯辰巳午未戌亥 赤貳 (朱書)  
一丹地小牡丹上手焼切
  - ③ 卯辰巳午未戌亥 赤三 (朱書)  
一萌黃地中牡丹時代焼切
  - ④ 卯辰巳午未戌亥 赤四 (朱書)  
一大紋白茶地時代焼切
  - ⑤ 卯辰巳午未戌亥 赤五 (朱書)  
一茶地朝鮮紗
  - ⑥ 卯辰巳午未戌亥 赤六 (朱書)  
一萌黃緋地中牡丹
  - ⑦ 卯辰巳午未戌亥 赤七 (朱書)  
一銀蘭梅鉢大紋
  - ⑧ 卯辰巳午未戌亥 赤八 (朱書)  
一段緞子
- 大 壹切
- 大 中 二切
- 一切
- 一切
- 一切
- 一切
- 一切
- 一切
- 一切
- 一切
- 一切



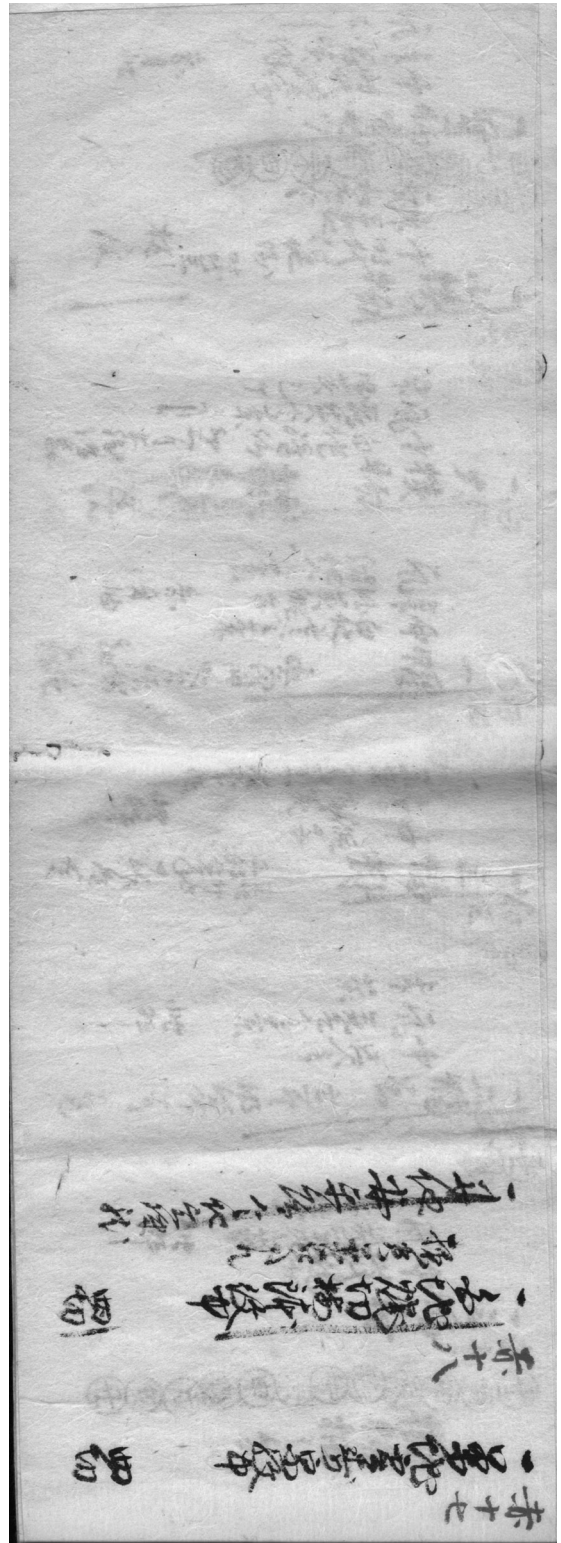
[四丁表]



[四丁裏]

- ⑤卯辰巳午未戌丑  
一花色鶴紋綴子 赤九 (朱書) 一切
- ⑤卯辰巳午未戌丑  
一蜀拝<sup>御</sup> 赤拾 (朱書) 大小 二切
- ⑤卯辰巳午未戌丑  
一白茶地縫模様海黄 匠新書 表具 一切
- ⑤卯辰巳午未戌丑  
一糸海気 赤十二 (朱書) 一切
- ⑤卯辰巳午未戌丑  
一紅花嶋海気 赤十三 (朱書) 一切
- ⑤卯辰巳午未戌丑  
一和物萌黄地竹屋町紗<sup>外</sup> 二用ル 赤十四 (朱書) 寅金■季 一切
- ⑤卯辰巳午未戌丑  
一紫地紬地 未年一休小色紙二用ル 赤十五 (朱書) 一切
- ⑤卯辰巳午未戌丑  
一有紋萌黄地純子 風呂敷 辰年一休二用ル 赤十六 (朱書) 一包分 一切
- ⑤卯辰巳午未戌丑  
一茶地蘭紋純子 一切

(白紙)  
[五丁裏]



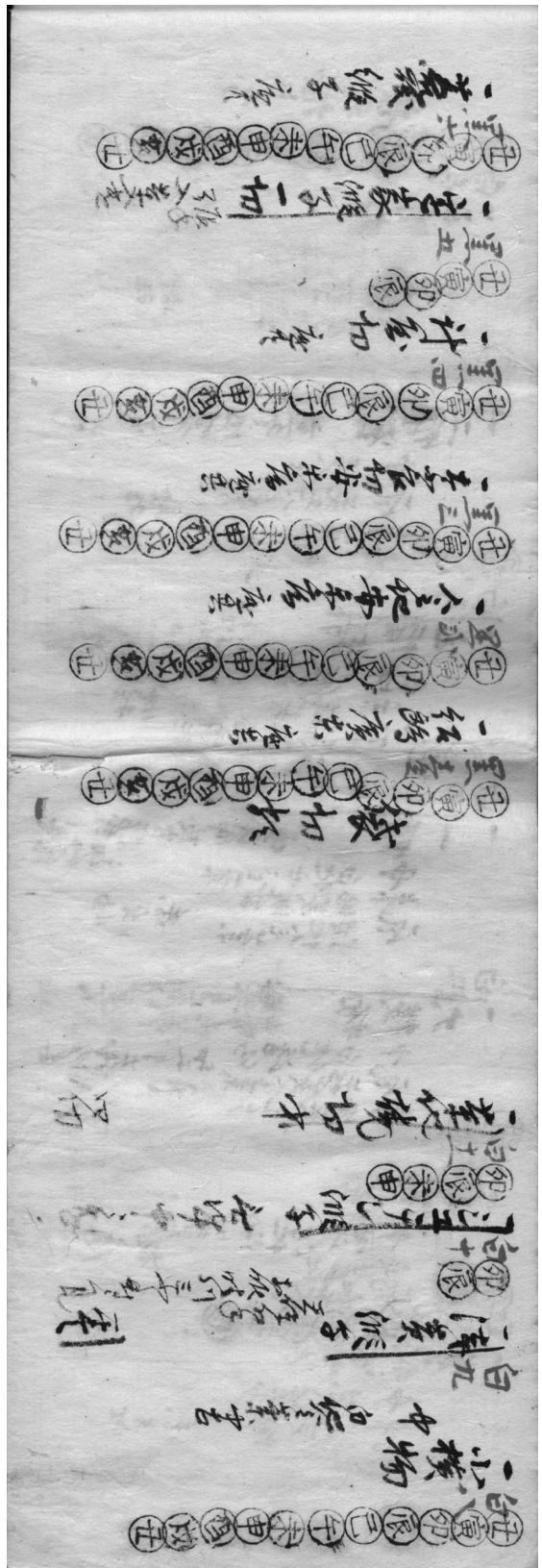
[五丁表]

- 赤十七 (朱書)  
一茶地震壽家紋中
- 赤十八 (朱書)  
一白地焼切梅鉢紋中  
■ (黄) ■ (黄)  
茶箱用 小
- 一丹地安楽庵金地宝珠籠

四切

四切



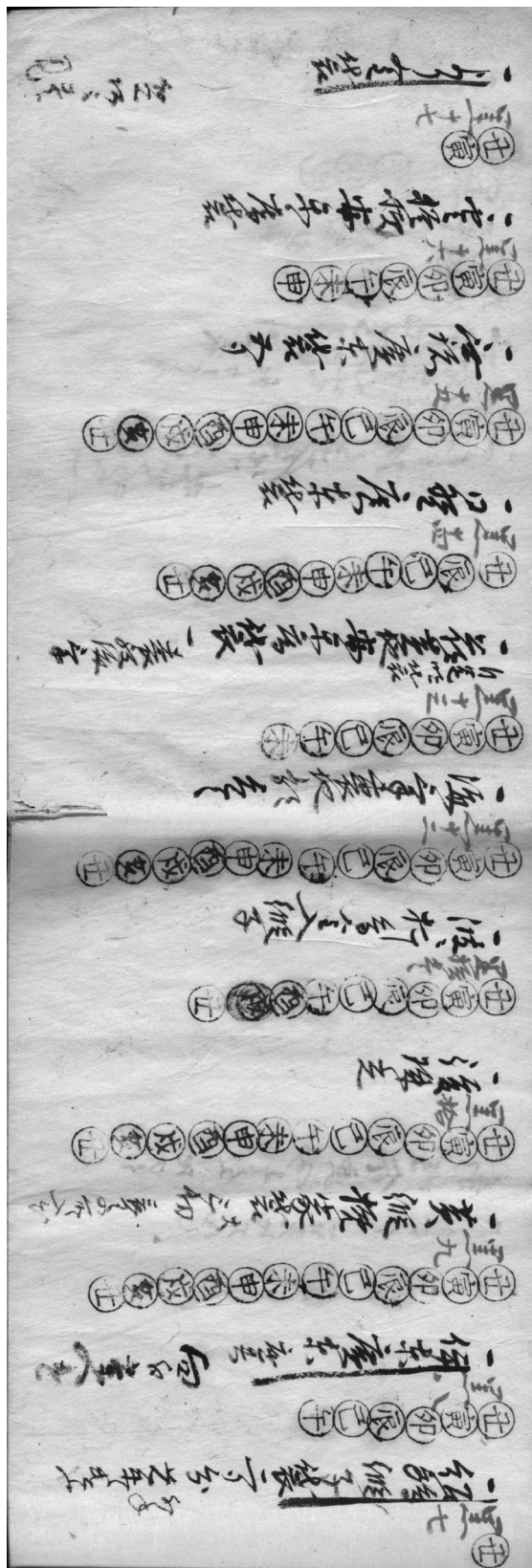


[六丁裏]

- ⑤(卯辰巳午未申酉戌丑) 一小横物
- 白八(朱書)
- 中 白地金蘭中古
- 白九(朱書)
- 一浅黄緞子
- 天保卯年
- 相■晴川三ふく對二用ル
- ⑤(卯辰巳午未申酉戌丑) 一シユチノ緞子 無地■中二■
- ⑤(卯辰巳午未申酉戌丑) 白十一(朱書)
- 一茶地焼切中
- 四切

袋切類

- ⑤(卯辰巳午未申酉戌丑) 黒壹(朱書)
- 一紹陽廣東 底共
- ⑤(卯辰巳午未申酉戌丑) 黒貳(朱書)
- 一金地安楽庵 底共
- ⑤(卯辰巳午未申酉戌丑) 黒三(朱書)
- 一奈良切安楽庵 底共
- ⑤(卯辰巳午未申酉戌丑) 黒四(朱書)
- 一計(針方)屋切 底共
- ⑤(卯辰巳午未申酉戌丑) 黒五(朱書)
- 一定家緞子一切 辰年丁人奉入遭
- ⑤(卯辰巳午未申酉戌丑) 黒六(朱書)
- 一荒磯緞子 底共

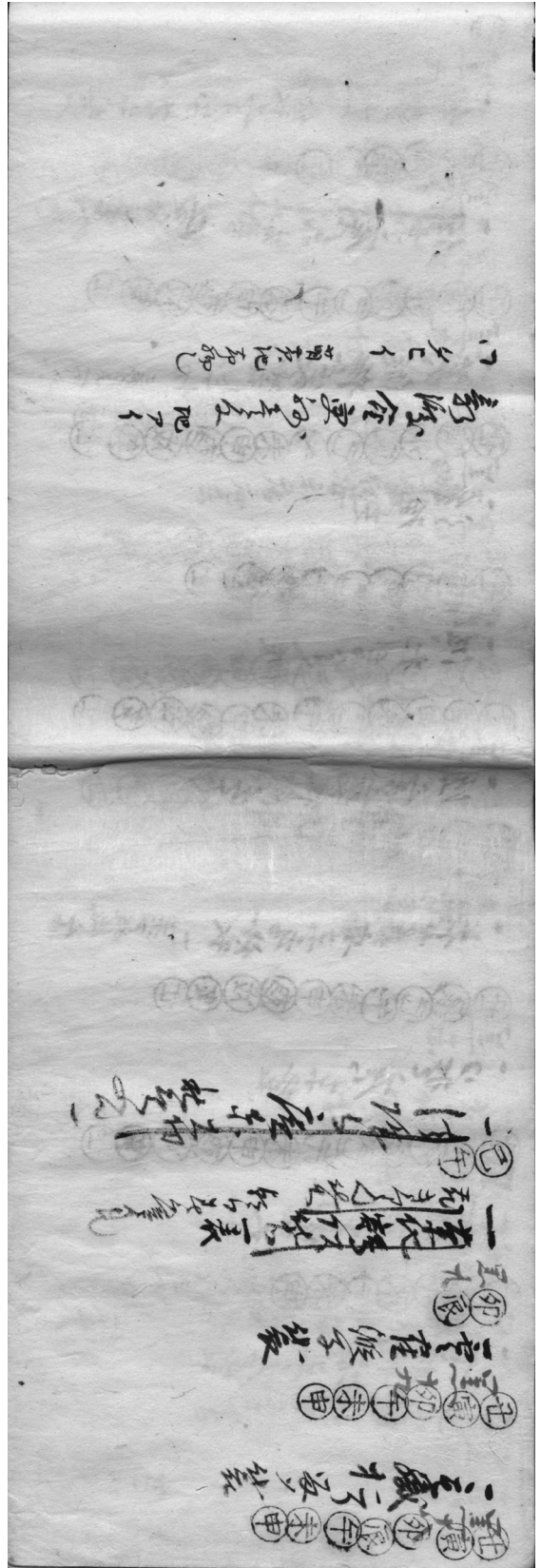


[七丁表]

- ① 黒七 (朱書) 一紹鷗緞子袋二ツ分  
 卯年 ■米へ遣也
- ② 黒八 (朱書) 一伊東廣東 底共  
 向白茶入遣
- ③ 黒九 (朱書) 一黄緞挽家袋 大三切 表具の所へ入置
- ④ 黒拾 (朱書) 一綾珠光
- ⑤ 黒拾壹 (朱書) 一波二計 鳥金入緞子
- ⑥ 黒十二 (朱書) 一海気裏地類色々
- ⑦ 黒十三 (朱書) 自是吟袋
- ⑧ 一萌黄地安楽庵袋 一 表紋海気
- ⑨ 黒十四 (朱書) 一日野廣東袋
- ⑩ 黒十五 (朱書) 一無銘廣東袋 五ツ
- ⑪ 黒十六 (朱書) 一雲模様安楽庵袋
- ⑫ 黒十七 (朱書) 一より金袋

笠阿三襲二  
用ル

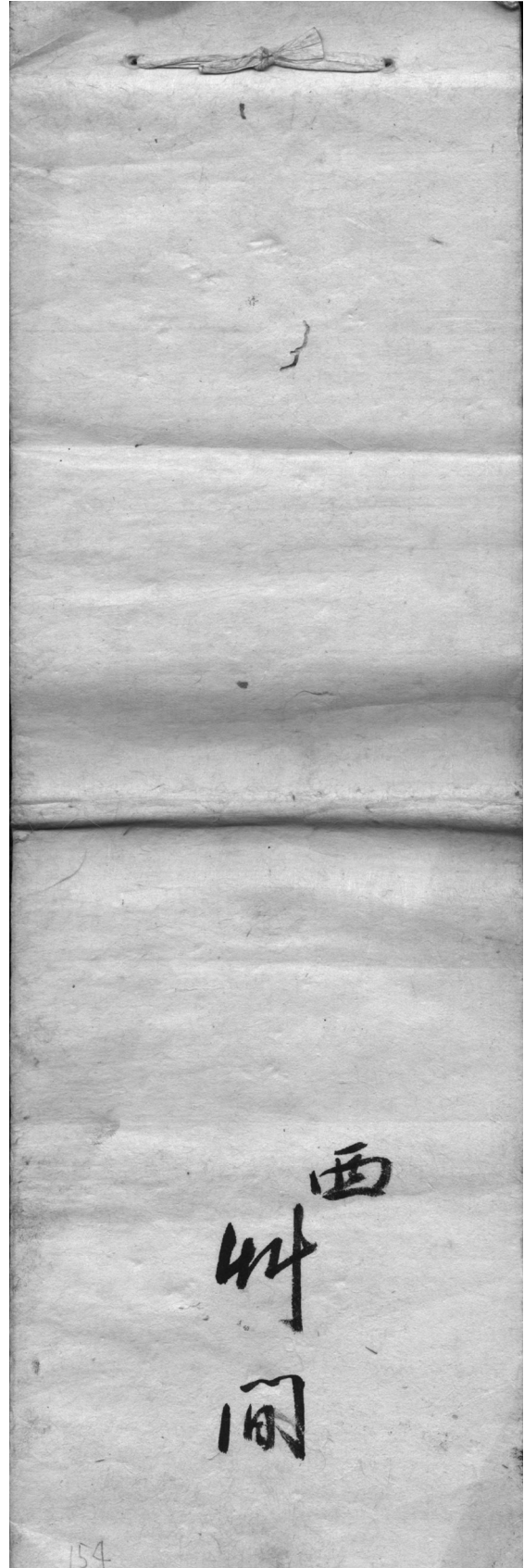
〔裏表紙裏〕  
〔白紙〕



〔七丁裏〕

新渡金更紗壹反 地アノ  
同 タビノ 萌黄地布物也

- ① 一法隆寺廣東 大切  
杜 ■ 八ル 一
- ② 一花きりん袋 朝日春 ■ 二用ル
- ③ 一茶地鶴頭袋 一表  
黒廿 (朱書)
- ④ 一祥雀緞子袋  
黒十九 (朱書)
- ⑤ 一花織松留入袋  
黒十八 (朱書)



西州間

[裏表紙表]